

京丹波の四季



木々や草花が色づきはじめ、  
生命の息吹を感じるこの季節、  
やわらかくて温かい日差しを浴びて、  
町内各所で色鮮やかな桜が開花し、  
艶やかな薄紅色の花びらが多くの人々の  
心を引きつけます。  
新緑が映える中、  
五穀豊穣を願う尾長野区の  
京都八坂神社の伝統行事「御田祭」など  
歴史と伝統に彩られながら  
京丹波町の春はにぎわいを見せます。

春



秋

自然の恵みを受けてたわわに実った  
黄金色の稲穂、白くてかわいら  
しいソバの花、それらを取り囲む  
ようにして咲き乱れる真紅の彼岸  
花、収穫の時期を迎え、農村風景  
は色鮮やかなコントラストに包ま  
れます。  
イチヨウやモミジが紅葉し、一年  
の中で最も美しい色彩を放ちます。  
秋には紅葉を一目見ようと紅葉ス  
ポットとして有名な玉雲寺を多く  
の観光客が訪れます。  
玉雲寺は、戦国時代に明智光秀に  
焼き討ちされるなど、光秀とゆか  
りが深い場所としても再注目され  
ています。



木々が落葉し、木枯らしが吹き出すと、  
いよいよ冬の到来。  
お正月に向けた黒大豆の収穫や  
出荷作業が一段落し、  
暮れ行く年を惜しみつつも、  
新しい年の始まりを迎えます。  
また、まちの酒蔵では冬の寒さとともに  
地酒の仕込みがピークを迎えます。  
そして、京丹波町の町並みが冬景色に様相を変え、  
山々が雪化粧に包まれると、  
まちにはひっそりと落ち着いた空気が漂います。

冬



木々の緑が鮮やかさを増し、  
抜けるような青空から太陽の光が降り注ぎます。  
あふれるような笑顔を見せて遊ぶ子どもたちや、  
由良川の流れを楽しむカヌーやアユの友釣りの竿が並ぶ姿が  
京丹波町の風景を彩ります。  
そして、今も昔も多くの人々を魅了する「夏祭り」。  
地域の特徴を生かしたさまざまな催しが行われ、  
ふるさとの風情を楽しみながら、  
ゆったりとした心地よい時間が流れます。



夏